

令和元年度 白石町立北明小学校学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
地域のよさをいかし、夢をもち、元気あふれる学校づくり ◇ かしこく(知) : 確かな学力・知恵を磨く ◇ やさしく(徳) : やさしい心・人と関わる力を培う ◇ たくましく(体) : 強い体・がまんする力を育む	○基礎・基本の学力の向上 ○学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力の育成 ○望ましい学習習慣と学習態度の育成 ○人と協調し、人を思いやる心の育成 ○自らを律する心の育成 ○人と関わる力の育成 ○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進 ○食育の推進と性教育の実施 ○特別支援教育の推進 ○教育相談の充実



3 目標・評価				
① 確かな学力・知恵を磨く				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。	・伝記などの本を読み聞かせをしたり、佐賀の偉人の名言やオリンピック選手の生き方などを朝会で紹介したりすることを通して、夢や生き方について自ら考えさせる時間や場面を設ける。
	●学力の向上	基礎・基本の学力の向上	・学期末に実施する漢字・計算フェスタでの合格者を90%以上にする。 ・CRTや学習状況調査の結果を前年度より向上させる。 ・授業中は自分の考えを持ち、発表できる児童を90%以上にする。	・漢字・計算フェスタに向け目標を設定して取り組ませ、主体的な学習態度を向上させる。 ・学年の実態に応じ、計画的に級外等を配置し、知識の定着と活用を図る。 ・学校教育活動全般において、児童が自分の考えを交流する活動を取り入れる。
		望ましい学習習慣と学習態度の育成	・学習用具等を忘れずに準備できる児童を90%以上にする。 ・家庭学習を忘れずにし、自主学習も頑張る児童を90%以上にする。	・年度当初に「学習の約束」を確認し、「かつお」を合言葉に共通理解のもと、準備の習慣化を図る。また、学級だより等で家庭に協力を働き掛ける。 ・「家勉週間」を毎月設定し、目標学習時間が達成できるよう家庭と協力して進める。
		TTや少人数指導等によるきめ細かな指導の充実	・各教科の単元テストにおいて、学級平均が期待得点を超えるようにする。 ・年度末での到達度テストで80%以上の得点率となるようにする。	・進度計画や、到達度について各教科で再点検を行い、教材開発を行う。 ・算数については、TTや少人数授業を学習内容や児童の実態に応じて実施する。 ・わかる授業作りに向けて、教材研究や教材の準備等を、学級担任とTT担当者が共同で行う。
	○ICT利活用教育の充実	ICTを利活用した「わかる授業」づくり	・ICTを活用した授業を全職員が実施する。	・長期休業中にICT利活用に関する職員研修を実施し、ICTの授業への活用スキルを高める。 ・デジタルとアナログ双方の利点を生かし、児童が学びやすい活用方法について研修等を行う。 ・ICT支援員を活用し、新学習指導要領全面实施に向けてプログラミング学習の実施と研修を行う。
○図書館教育	読書指導の推進と読書の習慣化	・朝の読書タイムの充実を図る。 ・学級での読書活動を促進し、授業での活用をすすめる。 ・毎月の「家読デー」で、家庭での読書推進を図る。 ・「読書の記録」を活用する。 ・年間読書冊数を平均200冊以上にする。	・図書館の環境を委員会の児童と一緒に工夫し、本への興味関心を高める。 ・読書タイムやボランティアによる読み語りを実施し、本に親しませる。 ・調べ学習等での図書館活用を促進し、関連書を増やしていく。 ・「めざせ〇冊カード」「〇冊達成賞」などで読書の意欲づけを図る。 ・家読(うちどく)を奨励し、定期的に図書だより等で保護者に呼びかける。	
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究の充実	・「特別の教科 道徳」において、「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりができる教員を80%以上にする。	・道徳教育推進教員を中心に、また、校内研究において「考え、議論する道徳」の授業づくりに関する研修会を実施する。 ・道徳の授業では、交流活動を取り入れた授業を実践していく。 ・「ふれあい道徳」参観において、「考え、議論する道徳」を踏まえた授業を公開する。

② やさしい心・関わる力を培う

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○環境美化	無言掃除の徹底	・無言掃除に懸命に取り組む児童を90%以上にする。	・毎週月曜日に行う無言掃除集会を通して、無言掃除の意義を考えさせる。 ・教師も児童とともに掃除に取り組み、無言掃除ができていない児童を認め、褒める。 ・無言掃除集会や掃除の時間に、掃除の仕方や掃除用具の取り扱い方、後始末の仕方などを順序立てて丁寧に指導する。
	●心の教育	人権・同和教育の充実	・「気になる子」を中心に据えた「一人一レポート」に全職員が取り組む。 ・部落差別についての学習を、人権教室などで取り扱う。	・PTAを対象とした「人権・同和教育」の講演会を実施する。 ・12月に人権集会や人権学習を実施する。 ・みんなの歌として、人権について考える内容のものを選択し、練習する中で人権についての考えや気持ちを高める。 ・人権学習の教材などを使いやすく準備する。
	○特別活動	子ども主体の児童会活動の充実	集会活動や縦割り班での活動などに楽しく参加することができる児童を90%以上にする。	・拡大代表委員会を開くことで、見通しや期待感を持って集会活動に取り組むことができるようにする。 ・自分達で楽しい集会や縦割り活動をつくっていけるよう、創意工夫ができる場を設定する。 ・活動の振り返り(かがやきポケット)を行うことで、互いのよさを認め合うことができるようにする。

③ 強い体・耐える力を育む

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	あいさつ・返事の習慣化	・あいさつと「ありがとう」返事ができる児童を90%以上にする。 ・地域においても元気よく挨拶ができる児童を育てる。 ・全児童が元気よく堂々と返事ができるようにする。	・交通指導員さん、北明っ子見守り隊の人、家族や地域の人に挨拶をすることや、道路を横断した後に止まってもらった車に「ありがとう」と言うことを、全校に指導する。 ・全校朝会、集会、地区児童会、授業中など常時継続して挨拶や返事について声をかけ奨励していく。 ・児童の自主的活動として、あいさつボランティアを募り、あいさつ運動を行う。 ・挨拶や返事が素晴らしかった児童を随時紹介し、意欲を高める。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが整った児童を90%以上にする。 ・口腔衛生に興味を持たせ、丁寧な歯みがきをする習慣の定着を目指す。	・集会や放送等での保健指導と保健だよりを活用し、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの大切さを児童や保護者に理解してもらい行動につなげることができるように啓発する。 ・保健室来室者や「すこやかチェック」を実施し、生活習慣の改善が必要な児童への個別指導を行う。 ・歯みがきは「歯の健康」のみではなく、感染症予防にもなることを啓発し、口腔衛生の向上につなげる。 ・学校歯科医等によるブラッシング指導を計画し、正しい歯みがきの仕方を身につけさせる。
		運動習慣の改善や定着化	・20分休みや昼休みに外で遊んでいると答える児童を85%以上にする。 ・スポーツテストの各学年における平均値が県の平均値を超える。	・運動委員会と連携を取り、遊びの企画を毎月提案する。 ・ロードレース大会の前の2週間に全児童が運動場を走る機会を設ける。また、自己目標を設定させることで、自ら意欲的に活動できるようにする。
	○教育相談	教育相談体制の構築	・児童の困り感や心の変化を早期に発見し、迅速な対応ができる校内体制を整える。	・毎日の児童観察や会話を通して、児童の些細な変化に気づくことができるようにする。 ・毎月全児童に「心のアンケート」を実施し、担任・管理職・関係職員で実態把握と対応を行う。 ・教育相談週間を10月に実施し、担任と児童が話をする機会を設けより信頼関係が構築できるようにする。 ・SCによるグループエンカウンターなどの授業を実施する。 ・教育相談だよりを月1回発行し、カウンセリングを利用しやすい環境を整える。

教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの未然防止と早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校の根絶を目指して、温かい人間関係を構築し、児童一人一人がお互いの個性を認め伸張し合う学級経営や道徳教育を充実させる。 問題行動の早期発見、迅速な対応を目指す。 いじめをしない思いやりの気持ちで友だちとすごすことができる児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uを年2回実施するとともに、長期休業中に各学級の実態について把握し、全職員で共有する機会を持つ。 いじめ・不登校未然防止のためにチェックリスト等を活用する。 管理職、生徒指導主任への報告、連絡、相談を密にし、問題行動への初期対応を充実する。 週一回の職員連絡会で生徒指導について全職員で情報交換を行い一人で抱え込まない体制をとる。 心のポストを設置し、投函について毎日確認し、いじめの早期発見、早期対応に努める。
	○特別支援教育	特別な支援を要する児童への学校全体による支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任だけではなく、学校全体として支援を行える体制を構築する。 児童一人一人の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 教育相談と協力して指導・支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職、教育相談担当、生徒指導主任、保護者への報告、連絡、相談を密にし、問題行動や児童の困り感への初期対応を充実する。 職員会議で支援の必要な児童について情報交換を行い、一人で抱え込まず全職員で支援する体制をとる。 個別の指導計画及び教育支援計画を、普通学級担任と特別支援学級担任とで協力して作成し学期ごとに見直しや改善策を立てる。
学校運営	○危機管理体制	児童の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や台風、地震、大雪、不審者事案等、実際の事例や事象に基づいて指導し、防犯・防災の意識を高める。 安全な避難に重点を置いた危機管理体制の充実を図り年3回訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全ボランティアと協力し校区をあげて安全指導に取り組む。 PTAと連携を図り通学路の危険箇所点検を行い、通学路の安全マップを更新する。 まちこみメールを活用し、緊急時等の連絡を速やかにする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○地域との連携強化	コミュニティスクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> 運営協議会の委員だけでなく、老人会、民生委員、公民館、婦人会等、校区内の各団体との連携を強化する。 地域ボランティアや外部人材を活用した学習を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、校区内の各団体の会合に管理職が出向き、学校行事等への協力を具体的に依頼する。 地域の方々に協力をいただいた取り組みを、学校HPや学校便り、コミュニティスクール便り等により、積極的に情報発信を行う。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 毎週の定時退勤推奨日を実行する。達成率をモニターに表示し、意識を高める。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目